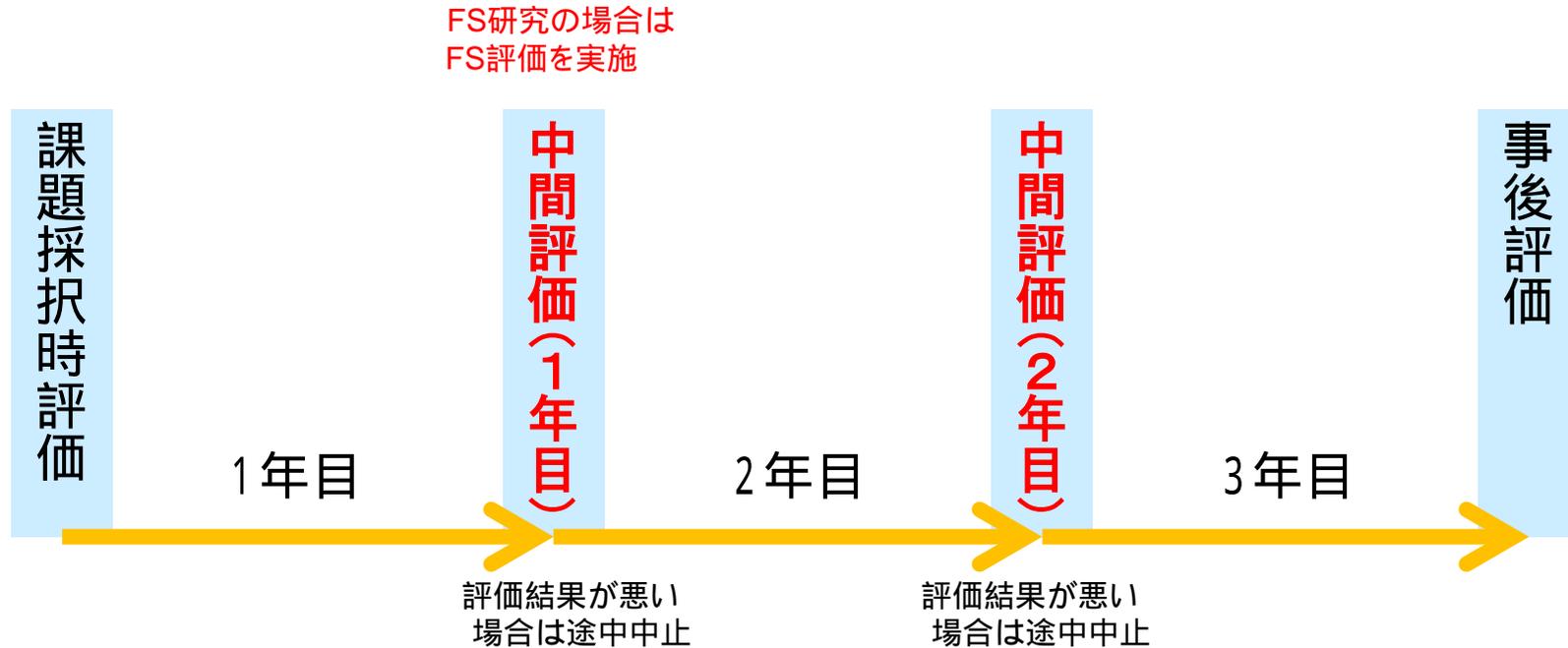


平成29年度継続課題の中間評価・
実行可能性調査(FS)評価について
(概要)

中間評価・FS評価の位置付け及び目的

位置付け

採択～評価の流れ(研究期間3年の場合)



目的

中間評価	FS評価
研究の見通しや進捗を評価し、以下を図る。 <ul style="list-style-type: none">・ 研究の適切な実施・ 次年度以降の研究費の適正化	<ul style="list-style-type: none">・ 期待する研究成果が得られるかどうかを評価・ 新規課題として採択するかどうかを決定

中間・F S評価の手順(スケジュール)

① 研究状況報告書の作成 (11月中旬～1月中旬)

書類の事前査読(書面による評価)

(1月下旬～2月中旬)

- 事前査読は実施するが、書面による評価の実施は任意とする。
- 委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡。

研究評価会の開催(ヒアリングによる評価)

(2月中旬頃)

- 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告10分、質疑10分。4～5時間程度)
- 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間・F S評価シートを作成。
- 各委員からの中間・F S評価シートを基に、中間・F S評価(案)を作成するための審議を実施。

中間・F S評価(案)の作成

(2月中旬～下旬)

研究評価会后、分科会長は中間・F S評価(案)を作成。

中間・F S評価の決定

(3月上旬頃)

新道路技術会議において中間・F S評価(案)を審議し、合議により中間・F S評価を決定。

中間・F S評価結果の通知及び公表

(3月中旬頃)

- 研究代表者に書面にて通知
- 道路局ホームページ等において、研究状況報告書、研究概要と併せて公表

中間評価の視点及び基準

評価の視点

1年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を効率的かつ計画通り達成するため、研究計画、実施方法、体制(研究遂行における研究代表者の主体性の確保を含め)が適切となっているか。
研究の見通し	研究の推進にあたり、研究目標の設定、研究計画、実施方法、体制、共同研究者の役割分担が明確になっているか。

2年目の研究	
中間評価の視点	説明
研究の進捗状況	研究の目的・目標を計画通り達成するため、1年目の評価結果を踏まえ、研究は適切に進捗しているか。
研究成果の見通し	当初計画通りの研究成果が期待できるか(研究の進展により、独創的、画期的な研究成果が期待できるか)。また、研究成果の活用方策が明確になっているか。

評価の基準

評点	区分	説明
A	現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B	現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C	研究計画を修正の上、推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D	中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

FS評価の視点及び基準

評価の視点

FS評価の視点	説明
FS研究による研究成果の見通し	FS研究により、計画通りの研究成果が期待できるものとなっているか。
FS研究結果を踏まえた研究計画の妥当性	FS研究結果を踏まえた研究計画が妥当なものとなっているか。

評価の基準

評点	区分	説明
A	新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。 よって、次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B	新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するものの、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。 次年度の新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D	不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

平成29年度中間・FS評価 対象研究テーマ及び担当委員(ソフト分科会)

No.	研究期間	委託研究テーマ (はFS研究を示す(2件))	研究代表者	タイプ	領域	評価分科会	
						分科会長	委員
	H27(FS) H28-H30	災害・日常時の道路の信頼性とその総合・長期的評価の研究開発:幹線道路ネットワークデザインと維持管理計画	金沢大学 教授 中山 晶一郎		2	朝倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・青木委員 ・江守委員 ・河口委員 ・久保田委員 ・佐々木委員 ・林委員 ・兵藤委員 ・道路局担当官 ・国総研担当研究官
	H27(FS) H28-H30	多様な観測データの活用による道路交通施策評価のためのモデル開発	山梨大学 教授 佐々木 邦明		3		
	H28-H30	ETC2.0プローブ情報等を活用した“データ駆動型”交通需要・空間マネジメントに関する研究開発	東京工業大学大学院 准教授 福田 大輔		-		
	H28-H30	蓄積車両軌跡データの効率的活用のための階層型データベースの構築	神戸大学 教授 井料 隆雅		-		
	H28-H30	複数のデータを活用した道路のストック効果の計測技術の再構築	広島大学 准教授 塚井 誠人		-		
	H28-H30	ワンウェイ型カーシェアリングシステムの導入可能性と道路空間の新たな利活用方策についての研究開発	熊本大学大学院 教授 溝上 章志		1		
	H28-H30	アジア都市における‘場’の機能を持った道路設計・運用に関する研究開発	横浜国立大学 教授 中村 文彦		5		
	H29-H31	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える新たな道路交通施策に関する研究開発	室蘭工業大学 准教授 有村 幹治		-		
	H29-H31	対流型地域圏における自動走行システム普及に向けた新たな道路ストック評価手法	東京大学 教授 原田 昇		-		
	H29-H31	質の高い交通時代のモビリティの価値の計測手法開発に関する研究	広島大学 教授 藤原 章正		1		
	H29(FS)	観光流動把握を目的とした交通流動推定システムの研究開発【FS研究】	京都大学 教授 宇野 伸宏		3		
	H29(FS)	交通事故リスクマネジメント手法の研究開発【FS研究】	愛媛大学 教授 吉井 稔雄		6		

平成29年度中間・FS評価 対象研究テーマ及び担当委員(ハード分科会)

No.	研究期間	委託研究テーマ (はFS研究を示す(1件))	研究代表者	タイプ	領域	評価分科会	
						分科会長	委員
	H27(FS) H28-H30	薄板モルタルとデータ同化手法を利用したコンクリート橋の3次元塩分浸透予測手法の開発	新潟大学 教授 佐伯 竜彦		5	那須委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今村委員 ・古関委員 ・下村委員 ・高橋委員 ・久田委員 ・山口委員 ・道路局担当官 ・国総研担当研究官
	H28-H30	新設コンクリート構造物における表層品質検査手法の確立	広島大学 准教授 半井 健一郎		4		
	H28-H30	市街地におけるプロビーム道路照明についての研究開発	北海道大学大学院 教授 萩原 亨		6		
	H28(FS) H29-H30	鋼橋の現位置改良工法の開発	(一社)日本橋梁建設協会 部長 大野 豊繁		8		
	H28(FS) H29-H30	市町村のニーズに応える革新的な点検支援システムに関する研究開発	愛媛大学 教授 氏家 勲		8		
	H29-H30	生産性向上とライフサイクルコストの削減に資する膨張材併用軽量床版の研究開発	東京大学 教授 岸 利治		-		
	H29-H31	耐候性鋼橋梁の診断・補修技術の高度化についての研究開発	山口大学 教授 麻生 稔彦		-		
	H29-H31	部分係数設計に向けた塑性化を考慮した鋼桁設計法の研究開発	長岡技術科学大学 准教授 宮下 剛		4		
	H29(FS)	リモートセンシング技術を活用した道路土構造物の維持管理の効率化に関する研究開発【FS研究】	東京大学 教授 古関 潤一		8		